

## 研修報告書No. 30

所 属：県外大学病院研修医

研修先：大月町立国民健康保険大月病院  
宿毛市立沖の島へき地診療所

2年間の初期研修の最後に高知県大月病院で地域研修をさせていただきました。私は大学病院のたすきがけプログラムを選択し、1年目は茨城の市中病院、2年目は都内の大学病院で研修をしました。高知県を地域研修先に選んだのは「行ったことのない場所に行ってみたかった」という単純な理由です。

はじめに、1か月間高知県で研修をして本当に良かったというのが率直な感想です。地域医療研修の感想をまとめると、日常の臨床業務、行政などマクロな視点、日常生活についての3つに分けられます。

まず日常の臨床業務についてですが、こちらでは普段大学病院で行うことの少ないプライマリ・ケアを多く経験し、勉強させて頂きました。具体的には高血圧、糖尿病のフォローアップ、風邪診療、対症療法などの内科疾患、また整形外科領域の肩痛、腰痛、股関節、膝関節などです。関節内注射や創処置などの手技も積極的に行わせてもらえました。普段大学病院で研修しているだけでは経験したくてもできない、しかし医師としての基本となる医療を学べたという点で、非常に有意義な研修であったと考えます。また医療の視点として、治療だけでなく自宅での役割や生活など、患者さん自身の生活のバックグラウンドを考えて臨機応変に対応することがいかに大切かということを確認しました。そしてまた1か月間の中で、往診や離島研修という地域でしかできない貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しています。

次にマクロな視点で見た高知県の地域医療についてです。基本的な情報として、高知県は人口対医師ベースでは医師は充足していますが、県内での地域偏在があり、過疎地の医療は極めて不足している状態です。お世話になった先生方は自治医科大学卒の先生方がほとんどでした。自治医科大学がなければ、日本の地域医療はすでに崩壊しているのではというのが率直な感想です。また逆に言えば、単純に自治医科大学の定員数を増やせば地域偏在の問題も是正されるのではとも感じました。もちろん多くの問題があり、それに代わるのが地域枠の拡充なのかもしれません。

私が地域を見て感じたことは、人がいることの価値と重要性です。行政の視点で、人を増やすことが最も重要だと感じました。どれだけ医療の質を上げて、患者満足度を上げ、よい医療を提供しても、そこに人がいなければ何も生まれません。少子高齢化の対策だけでなく、他県から人を呼ぶこと(高知県はこの点で地理的要因から大きなハンデがあると感じます)、人を地域に留めることが重要です。高知県は高齢化がすでに進んでおり、10年後の日本全体の医療を先取りしているという話を伺いました。その点ではある意味で最先端であり、挑戦的な試みをしてよいのではないのでしょうか。例えば外国人の受け入れなど

がやがて始まる時代が来るならば、積極的に取り組んでみることや、徹底的に財源を使って無償で子供を作って育てられるくらいの支援を行うことなどです。

最後に日常生活の面ですが、人が優しく温かかったこと、魚がおいしかったこと、海がきれいなことが印象的でした。

医療には色々な視点があり、色々な医療があります。日本と世界の医療は異なり、都会と田舎の医療は異なります。同じ地域でも、大学病院、市中病院、開業医の医療は異なります。

違う医療を見るということは非常に勉強になります。この病院で研修をすれば、1か月でも本当に多くの医療を診ることが出来ますので、これから地域研修を考えている方にもぜひおススメしたいです。最後に1か月間お世話になった病院の方々、高知県の方々に心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。